



RADIUS アカウンティングでのモバイルホットスポットの使用

- [機能の概要と変更履歴 \(1 ページ\)](#)
- [機能説明 \(2 ページ\)](#)
- [RADIUS アカウンティングにおける MHS の使用の設定 \(3 ページ\)](#)
- [モニタリングおよびトラブルシューティング \(4 ページ\)](#)

機能の概要と変更履歴

要約データ

該当製品または機能エリア	P-GW
該当プラットフォーム	• ICUPS • VPC-DI
機能のデフォルト	無効：設定が必要
このリリースでの関連する変更点	N/A
関連資料	<i>P-GW Administration Guide</i>

マニュアルの変更履歴

改訂の詳細	リリース
このリリースでは、P-GW は RADIUS アカウンティングでのモビリティホットスポット（MHS）の使用をサポートしています。	21.23

機能説明

RADIUS アカウンティングでは、サブスクライバのデータ使用量は、タイプ、長さ、値 (TLV)、つまり Acct-Input-Octets と Acct-Output-Octets を使用して監視され、累積データ使用状況レポートを受け取ります。この StarOS 21.23 リリースでは、RADIUS アカウンティングにおける、4G モバイルホットスポット (MHS) データ使用量、5G MHS データ使用量、および 5G コンポジットデータ使用量の差異を効果的に把握するために、次の新しい TLV が導入されました。

- 4G_MHS_Acct_Input-Octets
- 4G_MHS_Acct_Output-Octets
- 5G_MHS_Acct_Input-Octets
- 5G_MHS_Acct_Output-Octets
- 5G_Comp_Acct_Input-Octets
- 5G_Comp_Acct_Output-Octets

RADIUS 中間メッセージおよび終了メッセージにより、MHS データ使用量が報告されます。MHS データ使用状況レポートは、ベアラごとに使用できます。これらの TLV は、以前の中間メッセージと raw バイトからの累積値で構成されます。

MHS データ使用状況レポートを有効または無効にすると、この変更は新しいコールに対してのみ有効になります。



(注) MHS データ使用状況レポートでは、EUTRAN タイプおよび NB-IOT 無線アクセス技術 (RAT) タイプのみがサポートされています。

APN レベルに関連付けられている PRA プロファイルに設定されている PRA ID は、5G データ使用量を識別するために使用されます。

他の機能との関係性

この機能は、スマートフォンのテザリング検出サポート機能に関連しています。スマートフォンのテザリング検出サポート機能の詳細については、『*P-GW Administration Guide*』の「*PDN Gateway Overview*」の章 [英語] を参照してください。

ライセンス要件

RADIUS アカウンティング機能でモバイルホットスポットを使用するには、テザリング検出ライセンスを有効にする必要があります。特定のライセンス要件の詳細については、アカウント担当者にお問い合わせください。ライセンスのインストールと確認の詳細については、『*System*

Administration Guide』の「Software Management Operations」の「Managing License Keys」のセクション [英語] を参照してください。

制限事項

機能の既知の制限事項を次に示します。

- MHS は、custom76 ディクショナリのみをサポートします。

RADIUS アカウンティングにおける MHS の使用の設定

ここでは、RADIUS アカウンティングにおける MHS の使用の設定について説明します。

PRA プロファイルの設定

トラフィックを区別するように PRA プロファイルを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
configure
  context context_name
    pra-profile pra_profile_name
    [ no ] pra-id pra_id_value traffic-map-type type_value
  end
```

注：

- **pra-profile**：トラフィックを区別するように PRA プロファイルを設定します。
- **pra-id**：PRA ID を設定します。
- **no**：PRA ID を削除します。
- **traffic-map-type**：トラフィックマップタイプを設定します。
- **type_value**：ENUM 値（5G）を入力します。

注：

5G トラフィックを区別するために、APN レベルの PRA リストおよび関連する PRA リストごとに最大 3 つの PRA ID が許可されます。

APN レベルでの PRA プロファイルの関連付け

APN レベルで PRA プロファイルを関連付けるには、次の CLI コマンドを使用します。

```
configure
  context context_name
    apn apn_name
```

```
[ no ] pra-profile profile_value
exit
```

注：

- **apn** : APN を設定します。
- **pra-profile** : APN レベルで PRA プロファイルを関連付けます。
- **no** : APN レベルで PRA プロファイルを削除します。

AAA グループの設定

次のコマンドを使用して、新しく追加された TLV が RADIUS アカウンティングメッセージを送信するように AAA グループを設定します。

```
configure
context context_name
aaa group group_name
[ no ] radius accounting mhs-traffic enable
radius dictionary custom76
end
```

注：

- **mhs-traffic** : MHS データ使用量レポートを指定します。
- **enable** : MHS データ使用量レポートを有効にします。
- **no** : MHS データ使用量レポートを無効にします。

モニタリングおよびトラブルシューティング

ここでは、この機能をサポートするために使用できる show コマンドによるモニタリングとトラブルシューティングの方法について説明します。

show コマンドと出力

この項では、この機能の show コマンドとそれらの出力に関する情報を示します。

show subscribers pgw-only full all

show subscribers pgw-only full all コマンドの出力には、次の情報が表示されます。

フィールド	説明
4G MHS Input Bytes	4G テザリングで使用された入力バイトの総数。
4G MHS Output Bytes	4G テザリングで使用された出力バイトの総数。

フィールド	説明
5G MHS Input Bytes	5G テザリングで使用された入力バイトの総数。
5G MHS Output Bytes	5G テザリングで使用された出力バイトの総数。
5G Composite Input Bytes	5G コンポジット（テザリングおよび非テザリング）で使用された入力バイトの総数。
5G Composite Output Bytes	5G コンポジット（テザリングおよび非テザリング）で使用された出力バイトの総数。

show subscribers saegw-only full all

show subscribers saegw-only full all コマンドの出力には、次の情報が表示されます。

フィールド	説明
4G MHS Input Bytes	4G テザリングで使用された入力バイトの総数。
4G MHS Output Bytes	4G テザリングで使用された出力バイトの総数。
5G MHS Input Bytes	5G テザリングで使用された入力バイトの総数。
5G MHS Output Bytes	5G テザリングで使用された出力バイトの総数。
5G Composite Input Bytes	5G コンポジット（テザリングおよび非テザリング）で使用された入力バイトの総数。
5G Composite Output Bytes	5G コンポジット（テザリングおよび非テザリング）で使用された出力バイトの総数。

show apn name

show apn name コマンドの出力では、次の詳細情報が表示されます。

フィールド	説明
pra-profile Name	5G トラフィックを区別するために APN で関連付ける PRA 名を示します。

show aaa group name

show aaa group name コマンドの出力では、次の詳細情報が表示されます。

show pra-profile name

フィールド	説明
Allow accounting MHS Traffic	RADIUS アカウンティングメッセージでの MHS データ使用量のレポートを有効にします。

show pra-profile name

show pra-profile name コマンドの出力には、次の情報が表示されます。

フィールド	説明
pra profile name	5G トラフィックを区別するために APN で関連付ける PRA プロファイル名。
Context	コンテキストの名前。
PRA Id	APN に関連付けられる PRA ID。
Traffic mapping type	5G トラフィックマップのタイプ。

show pra-profile all

show pra-profile all コマンドの出力には、次の情報が表示されます。

フィールド	説明
pra profile name	5G トラフィックを区別するために APN で関連付ける PRA プロファイル名。
Context	コンテキストの名前。
PRA ID	APN に関連付けられる PRA ID。
Traffic mapping type	5G トラフィックマップのタイプ。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。